

ショートコメント vol.248 (2022 年 6 月 29 日)

テーマ：猛暑で高まる今夏のアエアコン需要

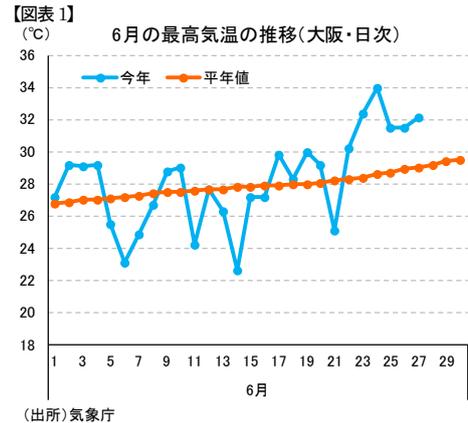
～省エネ家電の購入支援で節電を促すという選択肢も～

●今夏の猛暑予想

先日、関東甲信や東海、九州南部などの梅雨明けが発表された。平年よりも 20 日前後早い梅雨明けであり、今年の梅雨の期間は史上最短となる見込みである。

加えて、気温の面でも群馬では観測史上で初めて 40 度を超えるなど、各地で猛暑を記録している。今夏は電力需給のひっ迫が懸念される中、猛暑による電力需要の増加で、先行きの見通しは厳しいものとならざるを得ない。

大阪の 6 月の状況をみても、過去 1 週間は平年の気温を大幅に上回っており、今後の電力需要の増加が懸念される (図表 1)。

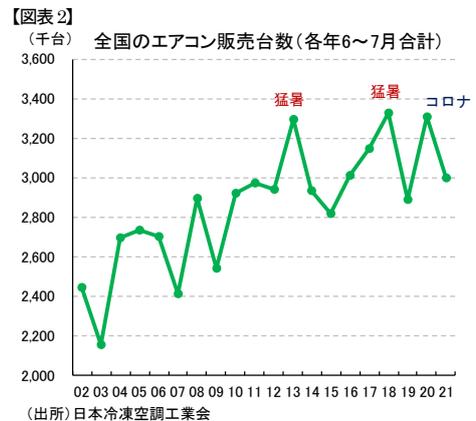


●猛暑によるエアコン需要の増加

一方、猛暑に伴う動きとして、今夏はエアコンなどの家電購入の増加が予想される。

実際に、過去 20 年でエアコンの販売が大きく伸びた年をみると、2013、18、20年の増加が目立つ (図表 2)。このうち、2020年はコロナ禍のステイホームに伴う購入とみられ、あとの2013、18年は記録的な猛暑の年にあたる。

今年は 2020 年から 2 年しか経っておらず、買換えの動きがどの程度出るかは不透明であるが、猛暑が需要全体に影響することは間違いなく、今後の推移が注目される。



●省エネ家電の購入支援について

そういった中、電力需給のひっ迫への対応として、政府は節電家庭へのポイント支給を検討している。現時点では節電プログラムに参加する家庭に 2000 円相当のポイントを支給し、さらに節電ポイントを上乘せする方針での検討が進んでいる。

すでに政府の方針が決まった中ではあるが、本来は猛暑によるエアコン需要の増加を見過ごす手はない。高まる需要にあわせて省エネ家電の購入支援を行えば、一定の節電につながる効果が見込めよう。具体的な支援があれば、少々割高であっても、省エネ性能の高い製品を選ぶ消費者も増えるのではないかと。

さらに、省エネ効果は今夏の節電に役立つだけではない。長い目でみれば、家庭部門での脱炭素の動きにもつながるなど、中長期的な効果も見込まれる。昨年来の電気料金の上昇で、もともと省エネ家電への需要が高まっていた中、今夏の猛暑で需要はさらに高まる。この動きをみすみす逃してしまうことは、誠に惜しいと言わざるを得ない。

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。